

令和4年度 自己評価表

学校法人中村学園

専門学校静岡電子情報カレッジ

※文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

1. 学校の教育目標

<建学の精神>

パイオニア（開拓者）の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献できる人格の形成を重点とする。

<校訓>

技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成

<専門学校静岡電子情報カレッジ 教育方針>

第四次産業革命の技術革新 - 秀でるものを磨き、産業界で必要とされる最先端のニーズに即応できるスペシャリスト（エンジニア、クリエイター、オペレーター）の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

（１）建学の精神、校訓、教育方針について、学生理解の徹底

本学アドミッション・ポリシーのなかで、特に重要なキーワードについては頻繁に学生の理解を確認し、教育課程に反映できるようにする。

（２）企業団体、企業との連携

産学連携教育プログラムによる本学ならではの職業人育成で当該分野への人材輩出を続けていく。

（３）CAN スカラシップ制度を実践的に運用

学科、学校のリーダーとして産学連携、他学科とのコラボレートなど、先導的な活動をさせる。教員の片腕となれるように責任をもって指導する。研究活動成果は企業にとってメリットとなり得るレベル・内容を目指す。また、その成果を広報面でも活用する。

現在、CAN スカラシップ制度を希望している学生が自主的に勉強会を始めている。この輪を広め、来年度の１年生でも参加でき、先輩が後輩に教える環境を整えていく。

（４）教育成果、ポートフォリオの見える化等、チェック体制を整備

学生が自ら学修成果をまとめ、振り返ることができるようにする。その内容を就職活動にも活かす。またその学修成果から、本学で学ぶとどのようなものができるようになるのか、教育内容の見える化を図るため、Web への情報掲載がより効果的になるよう継続する。

(5) 引き続き文部科学省委託事業への参画

文部科学省委託事業に参画し、社会人学び直し、中核的人材育成のための教材開発、e ラーニングによる先端技術教育環境整備について研究・開発を推進する。

(6) 全学生が、自ら気持ちの良い挨拶ができるように、今一度全人教育の基本に戻り学生指導を行う。

(7) 修業年限3年制の構築検討

IT 技術の高度化・広域化などにより現状の2年制では社会のニーズに必要な知識・技術を身に着けさせることが難しくなっているため、3年制への移行を検討する。

(8) 退学防止策の検討・実施

昨年度退学率が高かったため防止策の検討・実施を行っていく。本校が実施するカリキュラムや学校イベント等の内容について、なぜこの科目を学ぶ必要があるのか、学校イベントでの狙いとは何かなどをしっかり説明し、必要性を認識させる。学生が自ら主体的に学ぶように考えさせる施策も重要であり、具体策を検討する。

(9) 最新の技術やコンテンツを生で見る機会を増やす

コロナ禍でありながら規制が緩和されだし、都内等の展示会やイベントも開催されだしている。この中で様々な業種の最新技術、流行りなどを学生だけでなく教員も生で見る機会を設ける。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	4 段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	2
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

○学校、学科としての中期計画・長期計画を策定する。

○入学前指導（ステップアップレッスン）や年度当初におけるアドミッション・ポリシーの徹底、理解の指導が年間通じて必要。 ○企業、企業団体、各種団体との連携。 ○Web、SNS 等による教育内容の見える化、情報発信。 ○学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会でのご意見のカリキュラムやイベントへの反映。
②今後の改善方策 ○中期計画・長期計画策定の会議をもち、検討を進める。 ○アドミッション・ポリシーの理解を日々促す。毎朝の SHR において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。 ○企業、企業団体、各種団体と連携をしたロールプレイを多用し、実務に近い条件を経験できるようにする。 ○昨年度コロナ禍でできていなかった後援会総会、学級懇談会を開催し、保護者に対して本校の教育内容について説明する場を設ける。また、引き続き公式ウェブサイト、機関紙 CAN ジャーナル、SNS 等によって、保護者に対して「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知する。 ○学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会のご意見をもとに、年度末までに具体策を策定・実施していく。その結果を年度末の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会で報告する。
③特記事項 ○IT ゲーム＆ロボットシステム学科の職業実践専門課程認定を申請。認定待ち。 ○年 2 回の学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の実施。学校関係者評価の公表（専修学校としての義務）。 ○月刊の機関紙・CAN ジャーナルを通じて、学校の様子を各家庭にも伝えている。 ○日ごろの教育活動を SNS で動画配信している。 ○シラバス、評価基準は公式ウェブサイトに公開済（「高等教育の修学支援新制度」への対応）。

（２）学校運営

評 価 項 目	4 段階評価
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4

・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(3) 教育活動

評 価 項 目	4 段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題 ○学科編成の検討。 ○実践的な職業教育については、年ごとに学生のレベルの差異もあり、産学連携教育の安定的な実施ができない。 ○授業評価の実施・評価体制に不十分な面がある。 ○留学生、心身症等の持病をもつ学生、知的障害等の学生に対する個別対応。

○IT パスポート試験、基本情報技術者試験に対して、意識づける仕組みをつくる必要がある。
②今後の改善方策 ○業界ニーズ、他の教育機関の動向や現状を踏まえ、本学の学科編成を検討する。 ○カリキュラムの編成にあたり、教育課程編成委員の意見を踏まえつつ、現状のカリキュラムの見直しを行う。また、クラス運営・科目が増えるため常勤の増員や講師の増員も必要となるため募集をかける。 ○インターンシップ企業・業界団体の連携を深め、学生のレベルも相談し進めていく。 ○作品による評価の採点基準がわかりにくいので、学生がわかるような評価基準を文字などで準備する。また、教員・学生・講師の方々にも学生の手引きを再度精読してもらい、評価や判定基準の周知徹底を図る。 ○総合的な学力を早めに把握できるようにする。個々の面談を定期的に行う。
③特記事項 ○文部科学省委託事業を通じて、学生たちが VR 空間で卒業研究発表を行うイベントに参加できた。来るべきメタバースを先取りした体験ができた。 ○東京への研修学旅行が実施できた。先端 IT やその技術を活用したエンターテイメントに触れ、体験・理解を深めることができた。また屋形船など、東京の古き文化にも触れられ、視野を広めることができた。 ○ゲーム企業の代表から、ゲーム業界への就職について何が求められるかを直接講義頂いた。また学生作品の評価もいただくことができた。 ○コロナ感染等によるリモート授業については教員講師も学生もツールに慣れてきており、急に自宅待機になったとしても対応できるようになった。 ○IT パスポート試験については、入学予定者に課題として与えている。 ○映像系非常勤講師を改編することで、より実務に則した授業が展開できるようになった。

(4) 学修成果

評価項目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	3
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- 就職活動の遅滞する学生に対する個別指導。
- 国家資格の資格取得者を増やす。
- 卒業後の進路変更やキャリアアップの情報の入り方に偏りがある。
- 昨年度退学率が高かったので退学率を下げる。
- オンライン会社説明会やオンライン面接試験が急増している。
- 学生自身が自らの学力を客観的に理解できるようにする。

②今後の改善方策

- 卒業生が活躍している企業とのマッチングを増やせるような機会を作り、卒業生と共に就職活動を行わせる。
- 国家資格の資格取得者を増やすため、次のような取り組みをしていく。
 - ・入学前よりやる気のある入学者に対して早々に問題集や過去問題を実施する。
 - ・実技の授業でも国家資格の問題にも活用できるようなカリキュラムを組み、座学が多くならないように学習ができる仕組みを作る。
 - ・CAN スカラシップ生より始まった勉強会を利用し、他学生もこの勉強会を利用する。
- 卒業後の進路変更やキャリアアップの情報収集ができるよう、SNS や同窓会のホームページを活用していく。
- 退学率の低下のため、本校が実施するカリキュラムや学校イベント等の内容について、なぜこの科目を学ぶ必要があるのか、学校イベントでの狙いは何かなどをしっかり説明し、必要性を認識させる。自分の目標との差異を感じさせないようにする。また、面談を定期的に行い学生が抱える課題や悩みを早期発見・早期対応する。
- 急増しているオンライン会社説明会、オンライン面接試験への対策を指導内容に含む。また、企業側もリモートでの働き方が当たり前になっており、リモートでの授業をやっているかなどの質問がされるとのこと。リモート授業も併用しながらツールに慣れさせていく。
- i コンピテンシディクショナリなどを用いて、項目を明らかにした自己評価に用いることができる自己評価シートを作成し、学生に自己評価を行わせる。
- 卒業生のキャリアに合わせた資格取得へのサポートを今後も引き続き行う。

③特記事項

- 「新たな生活様式」のなか、学生個々が抱える心理面、経済面、学習面などの課題に迅速に対応している。
- 卒業生を囲む会、オープンキャンパスなどに招く卒業生の近況把握や選抜を学科全体で行っている。
- 自己評価シートを作成、学生に自己評価を行わせた。
- 保護者との連携を密にし、学生の変化に速やかに対応・指導することができた。

○記念事業において開催した同窓会総会等を通じて、卒業生との情報交換を深めることができた。

(5) 学生支援

評 価 項 目	4 段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①課題

○卒業生への支援体制を整備してはいるが活用される場面が少ない。学校として卒業生との繋がりも大切なため、活用されるように見直していく。

○リカレント教育への取組。

○中学校・高校とのキャリア教育の連携が一部に留まっている。

②今後の改善方策

○卒業生とのつながりが、卒業時の担任の個人 SNS だけとなってしまう。学校が管理できるような外部システムを取り入れられないか検討する。

○産学連携先や就職先、教育課程編成委員の意見を中心に、人材養成に対するニーズを引き出し、カリキュラムに反映する。

○毎年度、定期的に連携できる中学校・高校を広げていく。

○学生毎の支援背景を把握し、円滑な対応ができるように教員間で情報を共有する。

○心身に問題が生じた学生へのカウンセリング対応。

③特記事項

○在校生に対する支援により、退学者を減らすことができた。

○産業界との連携に加え、静岡県警、静岡市との連携活動（PR 動画制作）も行えた。

○情報産業協会との共催で、島田商業高校でプログラミング授業を 2 回実施した。受講生徒からの評判が高かった。

- 城南静岡高校の教員を対象に映像技術の講義を行った。次年度以降、生徒も来校して事業が展開できる見込み。
- コロナも落ち着いてきたため、高校生 ICT カンファレンスを学内で実施できた。次年度も実施を予定している。
- 藤枝北高校の生徒が来校、ゲーム、ロボット、映像、音響、それぞれの分野の職業紹介と体験授業を行い、職業観の涵養につながった。

(6) 教育環境

評 価 項 目	4 段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	4

①課題

- 講師の方より授業で活用したい備品（映像系の授業で一眼レフカメラなど）があがっている。
- 学生人数が例年より増えたためネットワークの整備が必要
- 危機管理マニュアルが整備されているが、9月の防災訓練が雨天により中止となっていることを踏まえ、学生に対する緊急時の行動について、日ごろから指導が必要。

②今後の改善方策

- 施設設備整備の計画・提案に向け、実務家教員（非常勤講師）と情報交換を行い、準備していく。また産業界ニーズや当該分野を希望する高校生がもつイメージについて研究、具現化を図る。
- 両館のネットワークの整備を行う。
- 危機管理委員会と共に全教職員が防災に対する高い意識を持つ。
- 研修修学旅行が従前のアメリカ西海岸に戻ることを想定し、準備を進める。

③特記事項

- VR ゴーグルと、それに対応可能な PC を整備した。
- ミラーレス一眼カメラを導入した。
- 昨年度音響機器の整備ができ、実習内容が一層充実した。
- 新型コロナの影響で、今年度も海外研修が実施できなかったが、東京への研修修学旅行が実施できた。学生たちの視野を広め、また友情を深める絶好の機会となった。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	4 段階評価
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題 ○本学が輩出する分野の人材育成について、関心のある高校生やリカレント教育希望者を開拓する。 ○在校生、卒業生が制作したコンテンツ（動画・画像・アプリケーション）を閲覧できる環境整備。 ○スペシャルオープンキャンパスで、在校生、卒業生の若手エンジニア、長年業界で活躍するスペシャリストによる、段階的な職業イメージの強化と本学出願までの誘導。その後の入学前教育へつなげ、入学前からのイメージの差異が生まれないような流れを作る。
②今後の改善方策 ○YouTube や Instagram などに在校生、卒業生が制作したコンテンツをアップロードしていく。アプリケーションを利用してもらえる環境を検討する。 ○学科内のみではなく、教職員全員が各学科の特長をよく理解し、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座、口コミで分かり易くアピールできるようにする。 ○オープンキャンパスの体験では、次のことに意識して計画から行っていく。 ・ 職業感を持たせる ・ 実際の授業に近い体験を実施する ・ 専門学校生活への不安を減らす ・ 大学との差異、本校の良さを伝える ・ ほかの参加者ともかかわりを持たせ楽しんでもらう ○ステップアップレッスン（入学事前指導）で入学までのレベルアップを図るとともに、入学までの期間でモチベーションを下げないようにするコンテンツを作成、実施する。
③特記事項 ○学生がサークル活動を通して主体的に学生や卒業生の情報を SNS で公開する取り組みが成果を挙げている。SNS を通じて日ごろから授業の魅力、学校行事、学科独自のイベント等を公開している。 ○夏のスペシャルオープンキャンパスでは、在校生が中心となって考えたコンテンツ、卒業生をお呼びしたコンテンツ、プロフェッショナルであるエンジニアに来校、対応してもらったコンテンツの 3 段階で行ったところ、参加者に大好評だった。イメージを持ったまま入学前指導につなげていきたい。

○ステップアップレッスンの成果が徐々にあらわれているが、それを定量的に評価できる仕組みを取り入れていきたい。

(8) 財務

評 価 項 目	4 段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	4 段階評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

①課題

○個人情報保護法の理解

② 今後の改善方策

○職員会議、学科・部署会議で法令遵守の確認を常時行う。

○学内研修により個人情報保護法の内容を理解し、法令順守の意識づけを行う。

③特記事項

○個人情報の取り扱いについて、入学当初に確認書の提出を義務付けている。

○個人情報に係る諸データは全てパスワード保護している。

○年度当初に年間の重点目標を設定。半年ごとに学科・部署で点検を行い、次期への課題・改善策をまとめ、反映させている。年2回の学校関係者評価委員会で学校関係者から評価を頂き、まとめ、公開している。

○高等教育の修学支援新制度認定を受け、成績評価基準、シラバス等について、最新の内容のものをオフィシャルウェブサイトで公開している。

○職業実践専門課程認定学科については、適切な時期に別紙様式4を更新、オフィシャルウェブサイトで公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	4 段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題 ○コロナ禍であったこともあり外部者に対して公開講座を行うなども控えていた。
②今後の改善方策 ○本学の長をアピールできる公開講座を学園祭以外にも企画し、マスコミにも働き掛け、広報活動にも活かしていく。
③特記事項 ○学校の施設を活用した高校生 ICT カンファレンスの実施や、検定会場としての実施などは行っている。 ○学生により創設された「クリエイティ部」では、コラボレイトを含め、活発に活動しており、福祉の学生と一緒にボランティア活動を行う流れができ始めている。 ○県からの委託事業（離職者訓練、長期人材育成）を受け入れている。 ○音響・映像系の学生たちを中心に、そのスキルを活かした本学広報支援活動を行っている。 ○島田市の商業施設を活用した地域イベントを行い、地域活性化の一翼を担うことができた。

（１１）国際交流

評 価 項 目	4 段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

①課題 ○コロナ過で人数が減ったこともあり、留学生の受け入れに対して特別なことはおこなっていない。 ○学習支援、生活指導等の課題整理は引き続き途上である。

②今後の改善方策 ○留学生の就職先・進路の確保。 ○留学生支援の体制を整備し、本学が求める条件をクリア可能な留学生の受け入れを行っていく。
② 特記事項 ○留学生に対する日本語能力試験への対応、日本語会話力向上をサポートしている。 ○現在の在校生の日本語能力試験の状況は N1 が 1 名、N2 が 4 名、N3 が 1 名となっている。

以 上